

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
I-1- (1)-① 仕事と 子育て の両立 支援	1	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライ フ・バランス 推進事業	女性 の輝 く社 会推 進室	誰もが多様な働 き方や生き方を選 択でき、活力ある 豊かな社会を実現 するため、企業等 の取組支援などを 行うとともに、企 業や地域での様々 な活動と連携しな がら仕事と生活の 調和（ワーク・ラ イフ・バランス） の推進を図る。	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5% （R1年 度）	目標 R1年度比 増加	R1年度比 増加	中期 目標 R1年度 比増加 （R6年 度）	5,677	7,475	3,960	8,400	順調	女性活躍・ワークライフバ ランス表彰では、令和4年度 に新たに3社が受賞し、累計 が86社と、概ね目標（87社） 通りの表彰数となった。 また、女性活躍・ワークラ イフバランスの推進に関する 企業へのアドバイザー派遣や 各種セミナーの開催等による 支援について、申込件数は令 和3年度とほぼ同程度（R3： 30回→R4：26回）であり、市 内企業の先進的な取組事例を ホームページで紹介するな ど、方法を工夫しながら実施 することができた。 加えて、仕事と生活の調和 が図られていると感じる人の 割合は、令和元年度に近い水 準を維持しているため、「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 女性活躍・ワークライフバ ランス表彰や企業へのアドバ イザー派遣、各種セミナーの 開催等により、企業等への取 組支援が着実に進んでいる。 女性輝き！推進事業では、 市内の女性管理職や女性起業 家の育成、子育て中の女性の 就職支援など、女性の「働 く」に係る幅広い支援を着実 に進めることができた。 以上のことから、「順調」 と判断。	企業については、仕事と生 活の調和が図られていると感 じる人の割合が今後さらに上 昇するよう、各種支援を通じ て意識改革を一層推進して いく。また、企業のニーズを踏 まえ、効率的・効果的な事業 実施を検討していく。 女性個人については、働く 女性・働きたい女性が、各々 の希望に応じ、その個性と能 力を十分に発揮して活躍でき るよう、引き続きウーマン ワークカフェ北九州を拠点と したワンストップでの就業支 援を行うとともに、子育て中 の女性でも相談しやすい体制 の強化、時代のニーズを踏ま えたスキルアップ支援など、 女性に寄り添った幅広い支援 を行う。
	2	④ ⑤ ⑧ ⑩	女性輝き！推 進事業	女性 の輝 く社 会推 進室	働く女性・働 きたい女性が、各々 の希望に応じ、そ の個性と能力を十 分に発揮輝ける よう、キャリア アップや就職、創 業支援、子育てと の両立支援等、幅 広く女性の就業を 支援するほか、 ウーマンワークカ フェ北九州の更なる 周知広報と新規 利用者の獲得を図 る。	女性の就業率（25 ～44歳）	70% （H27年 国勢調 査）	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	中期 目標 73% （R5年 度）	9,350	11,092	11,081	9,300	順調	コロナ禍においても実施方 法等を工夫しながら、コロナ 禍前と同程度のセミナー等 を実施することができた。 キャリアアップ支援事業や 女性の起業支援事業等に係 るセミナー参加者へのアンケ ット結果の満足度（大変良い・ 良い）が9割に達した。ま た、成果指標である女性の就 業率は平成27年国勢調査時 より5.5%上昇し、75.5%と なったことから、「順調」と 判断。	順調	【課題】 国の方針等を受け、女性活 躍やワーク・ライフ・バラ ンスの推進、働き方改革がよ り一層求められる中、さらなる 意識改革が重要となる。その ため、企業への取組支援の効 果的なPRを図るとともに、働 き方改革等への企業の意識改 革につながるような取組を強 化する必要がある。 また、女性個人について は、仕事と子育てとの両立や キャリアアップに関する不安 の解消が課題となっている。	

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)							決算額 (千円)
II-3- (2)-① 政策・ 方針決 定過程 への男 女共同 参画の 推進	3	⑤ ⑧ ⑩	北九州市職員 女性活躍・ ワークライフ バランス推進 プログラム推 進事業	女性 の輝く社 会推進	<p>女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取組を推進することにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。</p>	<p>女性役職者（係長級以上）比率（教職員・消防職員を除く）</p>	17.6% (H30年度)	<p>目標</p> <p>単年度目標なし</p>	<p>実績</p> <p>21.2 %</p>	<p>単年度目標なし</p> <p>22.6 %</p>	23% (R5年度)	5,545	4,520	3,523	10,475	順調	<p>女性職員の能力開発、キャリア形成支援にかかる取組を進めたことにより、女性役職者・管理職比率は中長期的に上昇傾向で推移している。また、テレワークの推進により、効率的な働き方を推進したほか、イクボスの実践により、多面評価の「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」も高水準で推移しているため、「順調」と判断。</p>	<p>市職員向けについては、「2040年40%」の女性管理職登用という目標達成に向けて、女性職員の育成や能力・両立不安の解消を加速させていく。また、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する環境づくりとして、男性職員の家庭参画に係る質の向上や役職者以上のイクボス実践を引き続き推進していく。市民向けについては、男女共同参画社会の形成の推進にあたって効果的な取組を実施するため、市民のニーズ等を踏まえながら講座などの事業内容の見直しに取り組む。「男女共同参画フォーラム in北九州」や「男女共同参画に関する広報啓発事業」の推進により、市民に対する広報活動を効果的に実施する。コロナ禍での事業実施を契機に取り入れたオンライン等による講義を積極的に進め、これまで参加していなかった若年層等を含めた幅広い層を見据えた事業を実施する。</p>	<p>市職員向けについては、女性職員が抱える能力不安や両立不安の解消が引き続き必要である。また、ワーク・ライフ・バランスの実現及び生産性向上の観点から、さらなる働き方改革が求められており、職場全体の意識改革も含めて、取組を加速させる必要がある。市民向けの取組としては、男女共同参画社会の形成を一層推進するため、男女共同参画センター・ムーブにおけるイベントや講座が、より多くの方に関心を持ってもらえる</p>
<p>女性管理職（課長級以上）比率（教職員・消防職員を除く）</p>	13.6% (H30年度)	<p>目標</p> <p>単年度目標なし</p>	<p>実績</p> <p>14.5 %</p>	<p>単年度目標なし</p> <p>16.6 %</p>	15% (R5年度)														
<p>部課長級の多面評価「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」</p>	88.0% (H27年度)	<p>目標</p> <p>単年度目標なし</p>	<p>実績</p> <p>94.0 %</p>	<p>単年度目標なし</p>	95% (R5年度)														
<p>男性職員の育児休業取得率</p>	14.8% (H29年度)	<p>目標</p> <p>単年度目標なし</p>	<p>実績</p> <p>60.3 %</p>	<p>単年度目標なし</p>	30% (R4年度)														

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）						
4	④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑰		男女共同参画センター管理運営事業	女性の輝く社会推進室	<p>男女共同参画センター・ムーブにおいて、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進する。</p>	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	17.0% (R4年度)	<p>目標</p> <p>単年度目標なし</p> <p>H29年度(26.7%)の水準より減少</p>	—	17.0 %	R4年度の水準より減少 (R9年度)	250,689	244,088	250,966	8,950	順調	<p>よう継続的にテーマや事業手法を見直す必要がある。 地域における男女共同参画推進啓発事業は、市民を集めて行う活動がベースとなるが、参加者が固定しないようこれまでリーチできていなかった層（男性や若年層等）への啓発拡大に繋げていけるようさらなる工夫が必要である。</p>	
					※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	達成率	—	136.3 %										
5	④ ⑤ ⑩ ⑰		地域における男女共同参画推進啓発事業【男女共同参画広報・啓発事業】	女性の輝く社会推進室	<p>地域における男女共同参画の推進を図るため、地域で活動している団体・グループ等が企画・実施する広報啓発活動を支援し、男女共同参画に関する理解を深める。</p>	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	17.0% (R4年度)	<p>目標</p> <p>単年度目標なし</p> <p>H29年度(26.7%)の水準より減少</p>	—	17.0 %	R4年度の水準より減少 (R9年度)	2,670	3,421	3,020	5,050	大変順調	<p>「男女共同参画フォーラム in北九州」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら29回(参加者1,559名)開催することができた。 「男女共同参画に関する広報啓発事業」は、7団体により多様な啓発事業を28回(参加者1,037名)実施することができた。 いずれも令和3年度より多く開催できた。これらの取組により成果目標が136.3%を達成したため、「大変順調」と判断。</p>	
					※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	達成率	—	136.3 %										

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)							予算額 (千円)	決算額 (千円)	
II-3-(2)-② ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進	6	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライフ・バランス推進事業	女性の輝く社会推進室	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業等の取組支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図る。	目標		R1年度比増加	R1年度比増加					R1年度比増加（R6年度）	5,677	7,475	3,960	8,400	順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰では、令和4年度に新たに3社が受賞し、累計が86社と、概ね目標（87社）通りの表彰数となった。 また、女性活躍・ワークライフバランスの推進に関する企業へのアドバイザー派遣や各種セミナーの開催等による支援について、申込件数は令和3年度とほぼ同程度（R3：30回→R4：26回）であり、市内企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。	【評価理由】 女性活躍・ワークライフバランス表彰や企業へのアドバイザー派遣、各種セミナーの開催等により、企業等への取組支援が着実に進んでいる。北九州イクボス同盟については、加盟数が順調に増加している。 市内全体での、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合も安定的に推移している。 市職員向けの取組としては、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進、イクボスマネジメントの実践によって、令和3年度に引き続き、男性職員の育児休業取得率は目標を上回っていることから、男性職員が育児休業を当たり前取得できる組織風土は着実に醸成されている。テレワークの推進については、在宅勤務をはじめ、モバイルワーク等、柔軟かつ効率的な働き方が進んでいる。以上のことから、「順調」と判断。	企業については、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇するよう、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。また、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的な事業実施を検討していく。 市内企業等のイクボス推進については、当該同盟の一層の拡大を目指すとともに、本市全体の機運醸成を図る。 市職員向けについては、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する環境づくりとして、男性職員の家庭参画に係る質の向上や役職者以上のイクボス実践を引き続き推進していく。
						実績	68.5% (R1年度)	66.3 %	62.7 %													
7	⑤ ⑧ ⑩ ⑭ ⑰	北九州イクボス同盟推進事業	女性の輝く社会推進室	働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	目標		R1年度(68.5%)比増加	R1年度比増加					R1年度比増加（R6年度）	5,796	9,455	7,841	9,550	順調	【課題】 国の方針等を受け、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進、働き方改革がより一層求められる中、さらなる意識改革が重要となってくる。そのため、企業への取組支援の効果的なPRを図るとともに、働き方改革等への企業の意識改革につながるような取組を強化する必要がある。 市職員向けについては、女性職員が抱える能力不安や両立不安の解消が引き続き必要である。また、ワーク・ライフ・バランスの実現及び生産性向上の観点から、さらなる働き方改革が求められており、職場全体の意識改革も含めて、取組を加速させる必要がある。			
					実績	68.5% (R1年度)	66.3 %	62.7 %														
					ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業（累計）	597社 (H26年度)	目標	単年度目標なし	単年度目標なし				1,600社 (R6年度)									
							実績	1,523 社	1,624 社													
							達成率	—	—													

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)								
8	⑤ ⑧ ⑩		北九州市職員 女性活躍・ ワークライフ バランス推進 プログラム推 進事業	女性の輝く社 会推進	女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取組みを推進することにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。	両立しながら新たな業務等にチャレンジしたいと思う職員の割合	69.9% (H26年度)	目標 単年度目標 なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 なし	80% (R5年度)	5,545	4,520	3,523	10,475	順調	イクボス・プレイクボス研修の実施により、ワーク・ライフ・バランスの推進に対する職員の意識改革が進んだことで、男性職員の育児休業取得率は令和3年度に引き続き、目標を上回った。 また、テレワークの推進により、効率的な働き方を推進したほか、イクボスの実践により、多面評価の「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」も高水準で推移しているため、「順調」と判断。			
					男性職員の育児休業取得率	14.8% (H29年度)	目標 単年度目標 なし	実績 60.3 %	達成率 —	30 %	58.8 %	196.0 %									次期計画に向けR5年度中に策定予定
					部課長級の多面評価「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」	88.0% (H27年度)	目標 単年度目標 なし	実績 94.0 %	達成率 —	単年度目標 なし	95% (R5年度)										
9	⑤ ⑧ ⑩		テレワーク推 進事業	女性の輝く社 会推進	仕事と生活を両立する仕組みづくりのひとつとして、情報通信技術を活用した柔軟な働き方の整備を推進するため、職員一人一人のライフステージや生活スタイルに合った働き方を実現できるテレワークの本格導入に向けて試行拡充を行う。	在宅勤務の実施人数 (女性活躍推進課で管理する端末の利用分)	—	目標 30 人	実績 32 人	達成率 106.7 %	45 人	30 人	66.7 %	5,260	5,100	5,100	5,825	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症防止対策や柔軟な働き方の実現に向けて、在宅勤務や外出先でのモバイルワークなどに幅広くテレワークが活用された一方で、復職サポートの実施人数は目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。		
					育児休業者を対象とした復職サポートの実施人数	—	目標 —	実績 —	達成率 —	30 人	10 人	33.3 %	実施の継続								

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
II-3-(2)-③ 性別による人権侵害行為の根絶	10	⑤ ⑩ ⑰	男女共同参画基本計画推進事業（配偶者等からの暴力対策事業）	女性の輝く社会推進室	配偶者や恋人等、親しい関係にある人からの暴力は、重大な人権侵害であることを誰もが認識し、暴力を容認しない意識の醸成のための広報・啓発を行う。  配偶者等との間における「平手で打つ」について、暴力と認識する人の割合  ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	76.8% (R4年度)	目標 単年度目標なし	80 %		R4年度の水準より増加（R9年度）	4,623	5,853	5,671	5,050	順調	専門的な知見を持つNPO等と連携して、高校・大学等でデートDV予防教室を15回行った。また、警察等関係機関との連絡会議を開催し、DV対策に係る現況報告や課題の検討による情報の共有を定期的に行っている。 デートDV予防教室回数、受講者数については、令和3年度と同程度（R3：16回、R4：15回）実施できている。また、配偶者等との間における「平手で打つ」について、暴力と認識する人の割合も概ね目標を達成できているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 高校や大学等でのデートDV予防教室の実施や関係機関との連絡会議の開催による情報共有等、コロナ禍においても活動を着実に実施していることから、「順調」と判断。  【課題】 デートDVは重大な人権侵害であることを誰もが認識し、暴力を容認しない意識の醸成を図るため、積極的な広報・啓発活動を継続して実施する必要がある。	小・中学生向け男女共同参画に関する副読本を用いた、子どもの頃からの男女共同参画への意識の醸成を図る取組や、高校・大学等でのデートDV予防教室、DV啓発リーフレット配布の取組などを継続していく。
II-3-(2)-④ 女性の活躍推進	11	⑤ ⑧ ⑩	北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム推進事業	女性の輝く社会推進室	女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取り組むことにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。  女性役職者（係長級以上）比率（教職員・消防職員を除く）  女性管理職（課長級以上）比率（教職員・消防職員を除く）  部課長級の多面評価「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」  男性職員の育児休業取得率	17.6% (H30年度)	目標 単年度目標なし	単年度目標なし		23% (R5年度)	5,545	4,520	3,523	10,475	順調	女性職員の能力開発、キャリア形成支援にかかる取組を進めたことにより、女性役職者・管理職比率は中長期的に上昇傾向で推移している。 また、テレワークの推進により、効率的な働き方を推進したほか、イクボスの実践により、多面評価の「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」も高水準で推移しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市職員向けの取組としては、各種研修の機会等を通じた女性職員の能力開発やキャリア形成支援の継続により、女性職員の登用が着実に進んでいる。 働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進、イクボスマネジメントの実践によって、令和3年度に引き続き、男性職員の育児休業取得率は中期目標を上回っていることから、男性職員が育児休業を当たり前取得できる組織風土は着実に醸成されている。 テレワークの推進については、在宅勤務をはじめ、モバイルワーク等、柔軟かつ効率的な働き方が進んでいる。 市内企業等に向けた取組として、北九州イクボス同盟については、加盟数が順調に増加しており、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合も安定的に推移している。 女性個人に向けた取組については、市内の女性管理職や女性起業家の育成、子育て中の女性の就職支援など、女性の「働く」に係る幅広い支援を着実に進めることができた。 また、ウーマンワークカフェ北九州は、電話相談やオンライン相談等により継続的に支援を行った。就職決定率は令和3年度より伸び、安定的に女性の就労に繋げることができている。 次世代活躍応援事業については、小中学生を対象に、市	市職員向けについては、「2040年40%」女性管理職登用という目標達成に向けて、女性職員の育成や能力・両立不安の解消を加速させていく。 また、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する環境づくりとして、男性職員の家庭参画に係る質の向上や役職者以上のイクボス実践を引き続き推進していく。 市内企業等のイクボス推進については、当該同盟の一層の拡大を目指すとともに、本市全体の機運醸成を図る。 女性個人については、働く女性・働きたい女性が、各々の希望に応じ、その個性と能力を十分に発揮して活躍できるように、引き続きウーマンワークカフェ北九州を拠点としたワンストップでの就業支援を行うとともに、子育て中の女性でも相談しやすい体制の強化、時代のニーズを踏まえたスキルアップ支援など、女性に寄り添った幅広い支援を行う。 次世代活躍応援事業については、社会において女性が自らの個性・能力を十分に発揮して活躍するためには、子どもの頃から性別による固定的役割分担意識をなくし、理工系分野など多様な進路に興味関心を持てるようにすることが重要である。 今後とも、女性の活躍が進んでいない分野への女子学生の進路選択を促進させる取組を支援していく。

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度		中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)						
12	⑤ ⑧ ⑰		北九州イクボス同盟推進事業	女性の輝く社会推進室	働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	68.5% (R1年度)	目標	R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度比 増加	R1年度 比増加 (R6年度)	5,796	9,455	7,841	9,550	順調	「北九州イクボス同盟」設立5周年記念事業として、ダイバーシティ推進に関する講演や企業の先進事例を紹介するパネルディスカッションを実施するなど、「北九州イクボス同盟」の拡大を図り、加盟企業・団体数も増加した。 (R3:222社→R4:286社) 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。	内企業と連携して女性の進出が遅れている分野への進路選択の動機づけにつながる取組を行う大学等を支援することができた。 以上のことから、「順調」と判断。  【課題】 市職員向けについては、女性職員が抱える能力不安や両立不安の解消が引き続き必要である。また、ワーク・ライフ・バランスの実現及び生産性向上の観点から、さらなる働き方改革が求められており、職場全体の意識改革も含めて、取組を加速させる必要がある。 また、女性個人については、仕事と子育てとの両立やキャリアアップに関する不安の解消が課題となっている。 次世代活躍応援事業については、固定的性別役割分担意識の払拭に向け、次世代を担う児童・生徒の進路選択意識の向上に資する効果的な取組を支援する必要がある。	
							ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業（累計）	597社 (H26年度)	目標	単年度目標 なし									
13	⑤ ⑧ ⑩		テレワーク推進事業	女性の輝く社会推進室	仕事と生活を両立する仕組みづくりのひとつとして、情報通信技術を活用した柔軟な働き方の整備を推進するため、職員一人一人のライフステージや生活スタイルに合った働き方を実現できるテレワークの本格導入に向けて試行拡充を行う。	在宅勤務の実施人数 (女性活躍推進課で管理する端末の利用分)	—	目標	30 人	45 人	100人 (R2~R4 年度累計)	5,260	5,100	5,100	5,825	やや遅れ	新型コロナウイルス感染症防止対策や柔軟な働き方の実現に向けて、在宅勤務や外出先でのモバイルワークなどに幅広くテレワークが活用された一方で、復職サポートの実施人数は目標を下回ったため、「やや遅れ」と判断。		
							育児休業者を対象とした復職サポートの実施人数	—	目標	30 人									10 人
14	④ ⑤ ⑧ ⑩		女性輝き！推進事業	女性の輝く社会推進室	働く女性・働きたい女性が、各々の希望に応じ、その個性と能力を十分に発揮し輝けるよう、キャリアアップや就職、創業支援、子育てとの両立支援等、幅広く女性の就業を支援するほか、ウーマンワークカフェ北九州の更なる周知広報と新規利用者の獲得を図る。	女性の就業率（25～44歳）	70% (H27年 国勢調査)	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% (R5年度)	9,350	11,092	11,081	9,300	順調	コロナ禍においても実施方法等を工夫しながら、コロナ禍前と同程度のセミナー等を実施することができた。 キャリアアップ支援事業や女性の起業支援事業等に係るセミナー参加者へのアンケート結果の満足度(大変良い・良い)が9割に達した。また、成果指標である女性の就業率は平成27年国勢調査時より5.5%上昇し、75.5%となったことから、「順調」と判断。		
							—	実績	—	75.5% (R2年国勢調査)									
								達成率	—	—									

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）							
15	⑤ ⑧ ⑩		ウーマンワークカフェ北九州運営事業	女性の輝く社会推進室	女性の就職・キャリアアップ・創業などをワンストップで支援する「ウーマンワークカフェ北九州」を運営する。	女性の就業率（25～44歳）	70% （H27年 国勢調査）	目標 単年度目標 なし	実績 —	75.5% （R2年国勢調査）	73% （R5年度）	—	—	—	—	順調	ウーマンワークカフェ北九州の運営について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和3年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、令和4年度からオンライン相談ができる体制を整えた。電話相談、オンライン相談を含めた相談者数は8,464人と、令和3年度（7,702人）を上回り、就職決定率も37.9%と令和3年度（31.5%）を上回ったことから、「順調」と判断。			
							達成率	—	—	—										
							目標	3,380 人	実績	1,797 人	3,500人 （R6年度）									
						ウーマンワークカフェ北九州新規利用者数	—	達成率	53.2 %	—	—									
							目標	—	実績	—	—									
							達成率	—	—	—	—									
						ウーマンワークカフェ北九州利用者の就職決定率	—	目標	—	33 %	—									
							実績	—	37.9 %	35% （R6年度）	—									
							達成率	—	114.8 %	—	—									
						ウーマンワークカフェ北九州相談者数	—	目標	—	6,300 人	—									
							実績	—	8,464 人	6,500人 （R6年度）	—									
							達成率	—	134.3 %	—	—									
16	④ ⑤ ⑧ ⑩		次世代活躍応援事業	女性の輝く社会推進室	女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムの提供に取り組む高等教育機関を支援する。	女性の就業率（25～44歳）	70% （H27年 国勢調査）	目標 単年度目標 なし	実績 —	—	73% （R5年度）	—	—	—	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により「理工チャレンジ」体験プログラムが実施できなくなった。一方、令和4年度からは同様の取組を行う大学等への支援に変更し、令和4年度は3大学に支援を行ったことで、計10社の企業と連携して事業が実施された。また、市が支援した3大学のうち、参加者アンケートが実施された事業では、就業への理解及び事業の満足度が100%であり、女性の就業促進のための意識醸成に寄与したため、「順調」と判断。				
							達成率	—	—	—										
							目標	—	300 人	—										
						研究・職業体験プログラム参加者数	—	実績	—	0 人	500人 （R6年度）									
							達成率	—	—	0.0 %	—									
							目標	—	—	—	—									

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)							決算額 (千円)
II-3- (4)-① 平和の 尊さへ の理解 の促進	17	④	平和のまち ミュージアム 管理・運営事 業	平和の まち ミュ ジ ア ム 事 務 局	戦後75年以上が経過し、戦争の記憶の風化が懸念される中、戦争の悲惨さを市民に伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとするため、令和4年4月に開館した「平和のまちミュージアム」の円滑な施設運営と、来場促進に向けた様々な取組を行う。	(仮称) 平和資料館の建設	—	目標 建築物・ 外構工事・ 展示製作等 の実施	—	(仮称) 平和資 料館の 建設	712,890	42,000	37,616	30,050	順調	当初の予定通り、平和のまちミュージアムを令和4年4月に開館。以降、円滑な運営ができています。 年間来館者数は当初の目標を下回ったものの、市内の小学6年生が近隣の議会棟や小倉城、松本清張記念館等とミュージアムを併せて周遊できる「平和のまちスタディツアー」や、他館と連携した企画展の実施、戦跡等を巡るバスツアーやデジタルスタンプラリーなど、来場促進に向けた様々な取組が実施できていることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 当初の予定通り、平和のまちミュージアムを令和4年4月に滞滞することなく開館した。以降、円滑な運営ができています。 「平和のまちスタディツアー」や、戦跡バスツアーなど、平和のまちミュージアムを拠点とした新たな平和学習の取組を開始しているほか、「嘉代子桜・親子桜」の植樹や長崎市への市民派遣事業も着実に実施できており、開館初年度の取組として、「順調」と判断。	ミュージアムの円滑な運営に努めるほか、近隣・類似施設、他都市と連携した様々な企画展・イベント等を実施するなど、来場促進に努める。 また、非核・平和推進事業については、事業効果等を検証のうえ、引き続き取組むほか、学生ボランティアの活用や高校と連携した学習支援など、平和学習拠点としての機能向上等を図り、平和の大切さを後世に伝えていく。
						平和のまちミュージアム年間来館者数	—	目標 —	50,000 人	50,000 人 (毎年度)	—								
	18	④	非核・平和推進事業	平和のまち ミュ ジ ア ム 事 務 局	本市の平和に対する基本的姿勢を示す「北九州市非核平和都市宣言」に込められた平和への願いを市民に伝えるため、また、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく次の世代に伝えるため、事業を実施するもの。	市民が平和の尊さを理解し、共有していくこと	—	目標 —	—	市民が 平和の 尊さを 理解す ること	1,688	10,000	7,817	13,950	順調	「嘉代子桜・親子桜」について、未植樹の県立高校への植樹等を実施。また、平和のまちミュージアムの敷地内にも植樹した。 長崎市平和派遣事業については、新型コロナウイルス感染症の影響の下、参加人数を半分にしながら車内換気や密にならない配席の工夫、食事会場の感染対策等を徹底し、実施することができた。 青少年ピースフォーラム派遣事業については、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、本来の規模で実施することができた。 以上を踏まえ、市民と平和の尊さの共有が図れたことから、「順調」と判断。	順調	【課題】 平和のまちミュージアムへの更なる来館者増を図るため、企画展・イベントを始めとする集客力のある魅力的な、様々な取組について検討する必要がある。 「嘉代子桜・親子桜」については、引き続き未植樹校への植樹を進めていく。	
							—	実績 —	—										
							—	達成率 —	64.0 %										

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	19	⑩	北九州市自治基本条例推進事業	総務課	本市の自治の基本的ルールを定めた「北九州市自治基本条例」（平成22年10月1日施行）の意義や理念などを多くの市民に理解してもらうため、周知等を行う。また、情報共有や住民参画の視点から業務を行い、条例の目指すまちづくりができるよう、職員向けの研修を行う。	市民が主役の自治（市民自治）の確立	目標	—	—	—	718	1,110	843	4,650	順調	【評価理由】 北九州市自治基本条例推進事業は、中学生用副読本の作成・配付、市職員への研修、市民向け講演会等の開催により、条例に対する理解を深め、市政への市民参画の重要性について考えてもらうための各種取組により、市民の関心を高めている。 公民連携推進事業は、令和4年度から「提案型ネーミングライツ制度」を導入。公民連携専用ホームページを活用した広報活動やパートナー代理店との連携により、事業者から7件の提案を受け、そのうち5施設のネーミングライツ導入を行っている。公民連携窓口の本格実施に向けた第一弾として、提案型ネーミングライツ制度の導入により、厳しい財政状況の中、歳入確保に寄与している。 以上のことから、「順調」と判断。  【課題】 自治基本条例に対する理解を深め、市民の市政への更なる参画を推進する必要がある。 また、公民連携窓口の設置にあたり、公民双方が連携しやすく、また連携の成果を享受しやすいスキームを検討する必要がある。	引き続き、市民への周知活動や職員への研修等を実施していく。特に若年層への認知度の向上を図り、自治基本条例に対する理解と市政への市民参画を推進していく。 また、公民連携推進については、公民双方が連携しやすく、また連携の成果を享受しやすいスキームを検討していく。		
	20	⑩	公民連携推進事業	行政経営課（市政変革推進室）	厳しい財政状況の中から持続的かつ安定的な財源を確保するため、「提案型ネーミングライツ制度」を導入する。さらに、公民連携窓口を設置し、民間の知見を活用した地域課題の解決や新たな事業機会の創出を図る取組を推進するとともに、効率的な事業運営を図る。	民間事業者からの提案受付件数（累計）	目標	—	5 件	20件（R4～R6年度）	—	6,100	1,095	4,775	順調				
Ⅲ-3-(3)-③ 企業の地域活動への参画促進	21	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライフ・バランス推進事業	女性の輝く社会推進室	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業等の取組支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	68.5%（R1年度）	目標	RI年度比増加	RI年度比増加	R1年度比増加（R6年度）	5,677	7,475	3,960	8,400	順調	【評価理由】 女性活躍・ワークライフバランス表彰では、令和4年度に新たに3社が受賞し、累計が86社と、概ね目標（87社）通りの表彰数となった。 また、女性活躍・ワークライフバランスの推進に関する企業へのアドバイザー派遣や各種セミナーの開催等による支援について、申込件数は令和3年度とほぼ同程度（R3：30回→R4：26回）であり、市内企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度に近い水準を維持しているため、「順調」と判断。  【課題】 国の方針等を受け、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進、働き方改革がより一層求められる中、さらなる意識改革が重要となる。そのため、企業への取組支援の効果的なPRを図るとともに、働き方改革等への企業の意識改革につながるような取組を強化する必要がある。	企業については、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇するよう、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。また、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的な事業実施を検討していく。	
								実績	66.3 %	62.7 %									達成率

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性												
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)																		
IV-3-(2)-① 若年者の就業意識の啓発や能力開発・就職活動への支援	22	④ ⑤ ⑧ ⑩	次世代活躍応援事業	女性の輝く社会推進室	女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。 また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムの提供に取り組む高等教育機関を支援する。	女性の就業率（25～44歳）	70% (H27年 国勢調査)	目標 単年度目標なし				1,946	2,200	638	4,825	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により「理工チャレンジ」体験プログラムが実施できなくなった。一方、令和4年度からは同様の取組を行う大学等への支援に変更し、令和4年度は3大学に支援を行ったことで、計10社の企業と連携して事業が実施された。 また、市が支援した3大学のうち、参加者アンケートが実施された事業では、就業への理解及び事業の満足度が100%であり、女性の就業促進のための意識醸成に寄与したため、「順調」と判断。	順調	社会において女性が自らの個性・能力を十分に発揮して活躍するためには、子どものころから性別による固定的役割分担意識をなくし、理工系分野など多様な進路に興味関心を持てるようにすることが重要である。 今後とも、女性の活躍が進んでいない分野への女子学生の進路選択を促進させる取組を支援していく。												
							実績 —																								
							達成率 —																								
						研究・職業体験プログラム参加者数	—	目標 300人																							
実績 0人																															
達成率 0.0%																															
IV-3-(2)-② 女性が活躍する産業都市づくりの推進	23	④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑰	男女共同参画センター管理運営事業	女性の輝く社会推進室	男女共同参画センター・ムーブにおいて、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進する。	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	17.0% (R4年度)	目標 単年度目標なし	H29年度 (26.7%)の水準より減少			250,689	244,088	250,966	8,950	順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため利用者数の制限を行いながらの開催となったが、オンラインによる講義等、新たな実施手法を取り入れる等工夫して実施したことにより、講座数・参加者数共に増加し、目標を達成したことにより、「順調」と判断。	順調	市民向けについては、男女共同参画社会の形成の推進にあたって効果的な取組を実施するため、市民のニーズ等を踏まえながら講座などの事業内容の見直しに取り組む。 市内企業等のイクボス推進については、当該同盟の一層の拡大を目指すとともに、本市全体の機運醸成を図る。 女性個人については、働く女性・働きたい女性が、各々の希望に応じ、その個性と能力を十分に発揮して活躍できるように、引き続きウーマンワークカフェ北九州を拠点としたワンストップでの就業支援を行うとともに、子育て中の女性でも相談しやすい体制の強化、時代のニーズを踏まえたスキルアップ支援など、女性に寄り添った幅広い支援を行う。 次世代活躍応援事業については、社会において女性が自らの個性・能力を十分に発揮して活躍するためには、子どものころから性別による固定的役割分担意識をなくし、理工系分野など多様な進路に興												
							※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	実績 —	17.0%																						
							達成率 —																								
						男女共同参画社会という言葉の認知度	78.4% (R4年度)	目標 単年度目標なし	80%																						
							※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	実績 —	78.4%																						
							達成率 —																								

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善				
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現況値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)						
24	④ ⑤ ⑧ ⑩		女性輝き！推 進事業	女性の輝 く社 会推 進室	働く女性・働き たい女性が、各々 の希望に応じ、そ の個性と能力を十 分に発揮し輝ける よう、キャリア アップや就職、創 業支援、子育てと の両立支援等、幅 広く女性の就業を 支援するほか、 ウーマンワークカ フェ北九州の更な る周知広報と新規 利用者の獲得を図 る。	女性の就業率（25 ～44歳）	70% (H27年 国勢調 査)	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% (R5年 度)	9,350	11,092	11,081	9,300	順調	<p>コロナ禍においても実施方 法等を工夫しながら、コロナ 禍前と同程度のセミナー等を 実施することができた。 キャリアアップ支援事業や 女性の起業支援事業に係る セミナー参加者へのアンケート 結果の満足度(大変良い・ 良い)が9割に達した。ま た、成果指標である女性の就 業率は平成27年国勢調査時よ り5.5%上昇し、75.5%と なったことから、「順調」と 判断。</p> <p>【課題】 市職員向けについては、女 性職員が抱える能力不安や両 立不安の解消が引き続き必要 である。また、ワーク・ライ フ・バランスの実現及び生産 性向上の観点から、さらなる 働き方改革が求められてお り、職場全体の意識改革も含 めて、取組を加速させる必要 がある。 市民向けの取組としては、 男女共同参画社会の形成を一 層推進するため、男女共同参 画センター・ムーブにおける イベントや講座が、より多く の方に興味を持ってもらえる よう継続的にテーマや事業手 法を見直す必要がある。 地域における男女共同参画 推進啓発事業は、市民を集め て行う活動がベースとなる が、参加者が固定しないよう これまでリーチできていな かった層（男性や若年層等） への啓発拡大に繋げていける ようさらなる工夫が必要であ る。</p>	<p>味関心を持てるようにするこ とが重要である。 今後とも、女性の活躍が進 んでいない分野への女子学生 の進路選択を促進させる取組 を支援していく。</p>	
						実績 —	75.5% (R2年国勢 調査)	73% (R5年 度)	9,350	11,092	11,081	9,300	達成率 —	—				
25	⑤ ⑧ ⑩		北九州イクボ ス同盟推進事 業	女性の輝 く社 会推 進室	働く人の幸せ、 生産性・業績の向 上、人材確保に繋 がり、その先にあ る「働きやすいま ち北九州」を目指 すために、平成29 年度に設立した 「北九州イクボス 同盟」を推進し、 経営者・管理職の 意識改革を図る。	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5% (R1年 度)	目標 R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度比 増加	R1年度 比増加 (R6年 度)	5,796	9,455	7,841	9,550	順調	<p>「北九州イクボス同盟」設 立5周年記念事業として、ダ イバーシティ推進に関する講 演や企業の先進事例を紹介す るパネルディスカッションを 実施するなど、「北九州イク ボス同盟」の拡大を図り、加 盟企業・団体数も増加した。 (R3:222社→R4:286社) 加えて、仕事と生活の調和 が図られていると感じる人の 割合は、令和元年度に近い水 準を維持しているため、「順 調」と判断。</p>		
						ダイバーシティ行 動宣言等登録・届 出企業（累計）	597社 (H26年 度)	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	1,600社 (R6年 度)								実績 1,523 社

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善																						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性													
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）																			
26	⑤ ⑧ ⑩		ウーマンワークカフェ北九州運営事業	女性の輝く社会推進室	女性の就職・キャリアアップ・創業などをワンストップで支援する「ウーマンワークカフェ北九州」を運営する。	女性の就業率（25～44歳）	70% （H27年 国勢調査）	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% （R5年 度）	31,528	32,616	30,481	6,800	順調	ウーマンワークカフェ北九州の運営について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和3年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、令和4年度からオンライン相談ができる体制を整えた。電話相談、オンライン相談を含めた相談者数は8,464人と、令和3年度（7,702人）を上回り、就職決定率も37.9%と令和3年度（31.5%）を上回ったことから、「順調」と判断。																
							実績 —	75.5% （R2年国勢調査）	3,380 人											3,500人 （R6年 度）												
							達成率 —	—	1,797 人											53.2 %												
						ウーマンワークカフェ北九州新規利用者数	—	目標 3,380 人	実績 1,797 人	3,500人 （R6年 度）	31,528	32,616	30,481	6,800						順調	ウーマンワークカフェ北九州の運営について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和3年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、令和4年度からオンライン相談ができる体制を整えた。電話相談、オンライン相談を含めた相談者数は8,464人と、令和3年度（7,702人）を上回り、就職決定率も37.9%と令和3年度（31.5%）を上回ったことから、「順調」と判断。											
							—	33 %	37.9 %	114.8 %																						
							—	35% （R6年 度）	6,300 人	6,500人 （R6年 度）																						
						ウーマンワークカフェ北九州利用者の就職決定率	—	目標 —	実績 —	35% （R6年 度）	31,528	32,616	30,481	6,800						順調					ウーマンワークカフェ北九州の運営について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和3年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、令和4年度からオンライン相談ができる体制を整えた。電話相談、オンライン相談を含めた相談者数は8,464人と、令和3年度（7,702人）を上回り、就職決定率も37.9%と令和3年度（31.5%）を上回ったことから、「順調」と判断。							
							—	114.8 %	8,464 人	134.3 %																						
							—	6,300 人	8,464 人	6,500人 （R6年 度）																						
						ウーマンワークカフェ北九州相談者数	—	目標 —	実績 —	6,500人 （R6年 度）	31,528	32,616	30,481	6,800						順調									ウーマンワークカフェ北九州の運営について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和3年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、令和4年度からオンライン相談ができる体制を整えた。電話相談、オンライン相談を含めた相談者数は8,464人と、令和3年度（7,702人）を上回り、就職決定率も37.9%と令和3年度（31.5%）を上回ったことから、「順調」と判断。			
							—	134.3 %	6,300 人	6,500人 （R6年 度）																						
							—	6,300 人	8,464 人	6,500人 （R6年 度）																						
27	④ ⑤ ⑧ ⑩		次世代活躍応援事業	女性の輝く社会推進室	女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムの提供に取り組む高等教育機関を支援する。	女性の就業率（25～44歳）	70% （H27年 国勢調査）	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% （R5年 度）	1,946	2,200	638	4,825	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により「理工チャレンジ」体験プログラムが実施できなくなった。一方、令和4年度からは同様の取組を行う大学等への支援に変更し、令和4年度は3大学に支援を行ったことで、計10社の企業と連携して事業が実施された。また、市が支援した3大学のうち、参加者アンケートが実施された事業では、就業への理解及び事業の満足度が100%であり、女性の就業促進のための意識醸成に寄与したため、「順調」と判断。																
							実績 —	—	—																							
							達成率 —	—	—																							
						研究・職業体験プログラム参加者数	—	目標 —	実績 —	500人 （R6年 度）	1,946	2,200	638	4,825						順調	新型コロナウイルス感染症の影響により「理工チャレンジ」体験プログラムが実施できなくなった。一方、令和4年度からは同様の取組を行う大学等への支援に変更し、令和4年度は3大学に支援を行ったことで、計10社の企業と連携して事業が実施された。また、市が支援した3大学のうち、参加者アンケートが実施された事業では、就業への理解及び事業の満足度が100%であり、女性の就業促進のための意識醸成に寄与したため、「順調」と判断。											
							—	300 人	0 人	0.0 %																						
							—	300 人	0 人	0.0 %																						

令和4年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
VII-1-(3)-③ 社会制度や社会問題 などに関する国際協力の推進	28	④ ⑤ ⑩	(公財) アジア女性交流・研究フォーラム事業	女性の輝く社会推進室	「国際的な最新情報の収集・発信」「成果の地域還元」「あらゆる分野での女性のエンパワメント」「次世代育成」「情報提供の充実」を目指し、様々な事業を実施する、(公財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援する。	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合  ※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)	目標	単年度目標なし	H29年度(26.7%)の水準より減少	R4年度の水準より減少 (R9年度)	39,000	39,000	39,000	4,050	順調	<p>(公財) アジア女性交流・研究フォーラムの目指す「国際的な最新情報の収集・発信」「成果の地域還元」「あらゆる分野での女性のエンパワメント」「次世代育成」「情報提供の充実」の達成のため、セミナーや報告会を開催した。</p> <p>「研究報告会」では、客員研究員による研究に加え、(公財)アジア女性交流・研究フォーラムのアジアジェンダー研究者ネットワークの有志による共同研究を実施し研究成果を市民や研究者に発信をした。</p> <p>「アジア女性会議-北九州-」では、4カ国をオンラインでつなぎ、ジェンダー問題の現状を共有し、「国際理解セミナー」では、国連の活動報告や有識者セミナーを3回開催し、国際理解促進を図った。</p> <p>以上の取組により、参加者の満足度が目標を達成していることから、「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】</p> <p>テーマや対象を絞り込んだ国際会議やセミナーの開催等、市民の理解促進に向け改善を加えながら実施しており、参加者の満足度が目標を達成(目標:70%、実績:89%)していることから、「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>本市の男女共同参画社会の形成の推進に向け、課題認識や解決につながる取組を進めていく。より効率的・効果的に実施するため、選択と集中により事業の見直し等を検討する必要がある。</p>	本市の男女共同参画社会の形成の推進に向け、フォーラムのあり方についての検討結果に基づき、中期計画の策定など具体的な取組を進める。
							実績	—	17.0 %										
							達成率	—	136.3 %										
						男女共同参画社会という言葉の認知度  ※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)	目標	単年度目標なし	80 %	R4年度の水準より増加 (R9年度)									
							実績	—	78.4 %										
							達成率	—	98.0 %										